

# 父 母 の 声

娘に「来年、コンちゃんたちいなくなっちゃうかもしれないんだよ」と、なかなか言いだせないでいます。指導員を続けたくても続けられないかも知れない事を、小学1年の娘にどう説明したらいいのでしょうか。この上さらに「もうキャンプも、お泊まり会も、サンマ焼きもできないんだ」なんて言ったら、「来年のキャンプでは絶対カレーの野菜を切る係になる」と決心している娘は泣いて暴れるかも知れません。

娘の通う学童保育には、コンちゃん、パンダ、つるちゃんという3人の指導員の方がいます。

入所式の時にはお赤飯を炊いてくれました。「家でも面倒くさくて炊かないのにね」と、他のお母さんとちょっと感激したことを覚えています。きっと前日から小豆をひたして準備してくれていたのでしょう。

子どもが「学校へ行きたくない」「友達ができない」と言い出したときには、担任の先生と連絡をとって子どもの様子を見てくれたり、みんなが帰った後の学童保育で指導員と担任と親とがどうしたらいいかを話し合ったりもします。夜の8時、9時に指導員の方の自宅に電話して、相談にのってもらったこともありました。

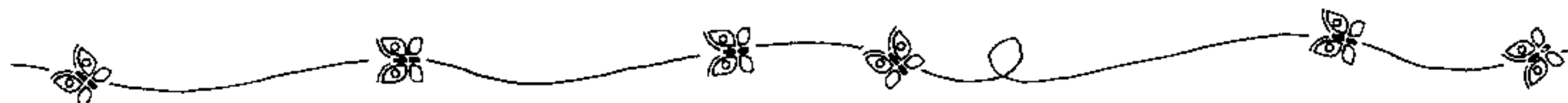
指導員の方たちが学校としっかり関係を作っていることを、親はとても心強く思っています。

パンダやコンちゃんが20年以上もかけて作ってきた関係です。どんなに学童保育の建物が古くても、トイレが2つしかなくても、私にはその関係があることの方がありがたい。なんでこんな貴重なものをなくしてしまうのかわかりません。

コンちゃん、つるちゃん、パンダ、どうかやめないで。

市長さん、指導員の人たちがやめないで済むようにどうかちゃんとした学童保育をつくってください。

(小栗原あそびクラブ 母)



2人の男の子を持つ母親です。2人とも1年生から学童保育に通っています。

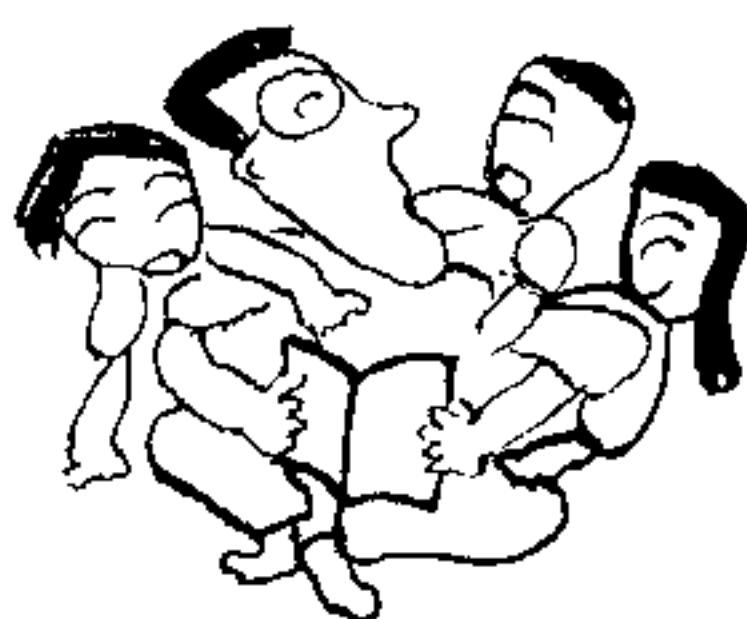
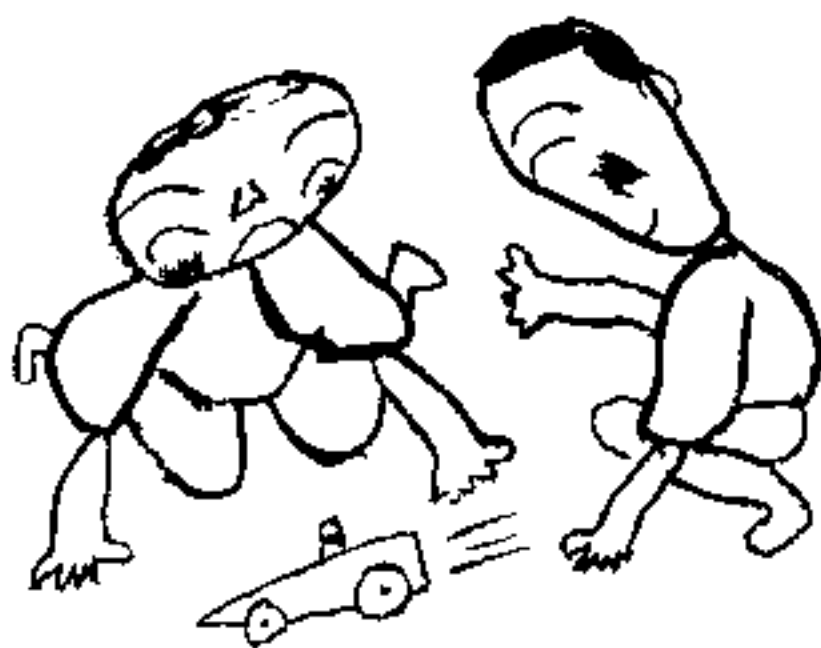
来年からの子どもたちの生活を考えると、とても不安です。

上の子は学童保育に入れるのか、もし入れなかったら夏休みはどうするのか。でも最も不安なのは指導員のことです。

子どもの生命をあずかる大事な仕事をしてくれる指導員が「非常勤一般職」という不安定な待遇でいいのでしょうか？指導員は今、不安定な状況にもかかわらず一生懸命子どもたちとの生活を大切にしてくれています。なによりも指導員の明るい笑顔が子どもたちを、そして親をも元気にしてくれるのです。

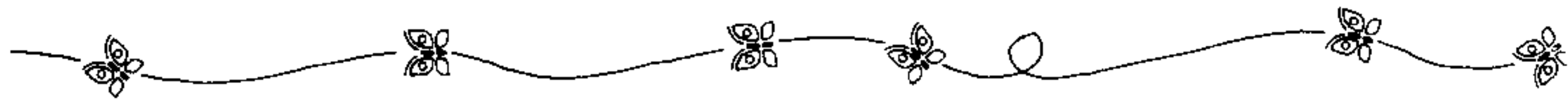
私たちは、市が指導員の報酬等を十分に保障し、安心して働き続けられることを願っています。

(行田ジャングルクラブ 母)



## 船橋市学童保育指導員労働組合

No.20 1999年12月20日



「おかあさん、お菓子の家持ってきたよ。」娘のはずむ声が今日も私の疲れを癒してくれます。

娘が学童保育に通うようになってからもうすぐ2年になろうとしています。小学校に入学するときの不安の大半は、下校後の数時間と夏休みなどの長い休業中のことでした。小学校に入ったら学童保育と決めてはいたものの、どんなところでどんなことをし、娘にとってどのような場所になるのか気がかりでした。

3月31日まで保育園に通い、4月1日より学童保育…。いきなり新しい環境で丸1日を過ごすということは、子どもにとっても、また、親にとってもものすごく不安でした。しかし、1日目を終えての娘は、目を輝かせて遊んだこと、おやつのこと、使っているコップの模様のことまで聞かせてくれました。その後の数日も無事に過ごすことができ、学童保育は楽しい場所、大丈夫な場所と思えたようでした。安定した気持ちで入学式を迎えられたことで、さらに新しい環境である小学校へもスムーズに入っていくことができたのだと思います。

それから、班作りをしたこと、よもぎ団子を作ったこと、お皿を洗ったこと、桑の葉をとって蚕にあげたこと、草取りをしたこと、ミミズ集めをしたこと……などなどたくさんのことを「今日ね……」と話してくれました。たくさんのいろいろな経験を思う存分させていただいています。お兄さん、お姉さんたちと触れ合うことで人と人との関わりも学ばせてもらっています。

しかし、学童保育は娘にとっていろいろなことをするだけの場所ではないのです。娘は生来の性格というか、早生まれということもあってか、とにかく何をするにも時間がかかり、学校ではまわりに遅れて遅れて事を進めて、やり終えることで精一杯という状況でした。そんな娘は学童保育に「ただいま。」と帰ってほっと一息つくのです。

ぼうっとしていられる時間があり、ゆったりとした気持ちにさせてくれる…学童保育はそんな場所でもあるのです。学童保育はあるがままの自分でいられる場、安心と安らぎを与えてくれる娘の居場所なのです。娘にとっては『もう一つの我が家』と言えます。

これも子どもたちのことを深く考え、広い心で受けとめてくださる指導員の先生方のお力のおかげです。娘が安心して生活できる学童保育があり、娘を心から信頼してお預けできる指導員の先生方がいらっしゃるからこそ、わたしも安心して仕事をする事ができるのです。

今通っている学童保育が、娘は大好きです。われわれ親も大好きです。そして今保育園に通っている5歳の息子も「ぼくもお菓子の家作るんだよ！」自分が学童保育に行ける日を心待ちにしているほどです。



(三山わんぱくクラブ 母)